

## 令和4年度 事業報告

千葉県並びに千葉県教育委員会及び公益財団法人ボーイスカウト千葉県連盟維持財団をはじめとする関係の皆様のご支援と各団・各地区のご協力をいただき、県連盟事業を推進できましたことに深く感謝申し上げますと共に県連盟の主な実施事業等につきましてご報告申し上げます。

事業につきましては、令和2年度に発生した新型コロナウイルス感染症が終息する気配も見せず令和3年度に引き続き対面活動の制限等活動への制約が求められる中で、Webミーティングを活動に利用したり個別テントの導入を進めたりするなどプログラム展開への配慮により進歩進級への対応にも苦しみました。

中でも開催を1年間延期して万全を期した第21回千葉県キャンポリーにつきましてはコロナ禍による参加者の大会期間中の感染症発症時に対応する医師・看護師の常駐等について多方面にわたり努力を致しましたが確保する事が出来ませんでした。

更に、感染症発症時に当事者の大会会場周辺の医療機関への収容や帰宅時の搬送等に十分な対応が難しい事等との検討結果を受けて、県連盟運営会議・臨時理事会等を招集しあらゆる可能性について検討した結果、断腸の思いで大会の中止を決定する事としました。

このことにより、県キャンポリーと連携を図りつつ分散開催として開催された第18回日本ジャンボリーへの参加も県連盟単位ではなく各地区・各団単位のものとなりました。

また、中止の決定により、新たな問題として、既に徴収している参加費の返還について、既に大会会場のインフラ関係及び事前調達物品等の予算執行が進んでおり、全額を返金する事が出来ない時期となっている状況であったことから、千葉県連盟緊急時対応積立金の活用を理事会にて確認し、出来るだけ返金ができるように対応しました。

他方、日本連盟の創立100周年の年度にあたり、各種イベントが実施され、中でも11月26日(日)に天皇皇后両陛下並びに岸田総理大臣、永岡文部科学大臣のご臨席を戴き記念式典が挙行されるなかで、千葉県連盟代表スカウトが記念式典において次の100年に向けた決意表明を行いました。

指導者養成事業では、WB実修所BS課程第202期並びにWB研修所2コースと団委員研修所を開催し、ボーイスカウト講習会は前年度を上回る参加者を得る事ができました。

例年開催しております県内団委員長集会では新規指導者のリクルートに関わるAIS(アダルト・イン・スカウティング)の理解に向けたヒントを得るために、この運動に初めて関る成人が参加するボーイスカウト講習会を団委員長自身が再度受講して体験することでAISに関わる理解の促進を目指しました。

県内隊指導者研究集会についても、明石 要一千葉敬愛短期大学学長の基調講演を受け実り多い研究集会となりました。

令和5年8月に韓国にて開催される第25回世界スカウトジャンボリー(25WSJ)につきましては、参加者の募集・面接をはじめ、3月19日に派遣隊の結隊式を開催し、参加に向けた準備活動が開始されました。

富士・隼スカウトの県知事顕彰会につきましては、千葉県教育委員会の協力の下、黒野嘉之千葉県副知事、冨塚昌子千葉県教育長、山中 操千葉県ボーイスカウト・ガールスカウト等振興議員連盟会長並びに鈴木信一千葉県教育委員会教育振興部生涯学習課長のご臨席を頂き印象深い顕彰会となりました。

加盟登録数につきましては、過去3年間に亘り継続してきた活動の自粛期間でありましたが、ワク

ワク自然体験遊びを県内各地区、各団の協力を戴き実施展開する事により、令和4年3月末のスカウト数と、令和5年3月末時点のスカウト数比較では、2,517人に対し15人が増加し、2,532人となりスカウト数がプラスになりました。

しかし、指導者数は依然として減少傾向に歯止めがかからない状況になっています。

なお、スカウトの新規登録数には改善傾向が見られましたが、未だ中途隊団者が多く発生している状況にあります。更なる組織拡充事業の継続実施が求められており各地区各団が実施する本事業に対する県連盟としての支援体制を整えています。

また、令和4年度には千葉県連盟の11地区を新4地区に再編するために県連盟規約、地区に関する規則の改正や新4地区の地区に関する規約等の改正や準備作業を実施して参りました。

結果として、「うみかぜ地区」、「なぎさ地区」、「かわかぜ地区」、「おおとね地区」への再編成により、令和5年度を迎える事となりました。

以下、各部門別に各事業の実施状況について概要を報告します。

#### (1) コミッショナー関係

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の対応の活動方針を緩和し、対面での活動、続いて条件付きながら宿泊を伴う活動を再開しました。新型コロナウイルス感染症の制限により出来ないこと、反面新たな取り組みもできました。

- ①指導者のニーズに合った様々なテーマと、部門毎に設定した県連盟共通テーマによるラウンドテーブルを各部門でオンラインにて開催し、充実したプログラムが提供できるよう指導者の資質向上に取り組みました。
- ②コミッショナーベーシックトレーニング、県連盟内コミッショナー会議・研究集会などを通して、スカウト運動の担い手としてコミッショナーの支援力の更なる向上に取り組みました。
- ③スカウト教育法に基づくプログラム、スカウトスキルに裏打ちされた野外活動およびスカウト教育法を活用したプログラムの展開に向けた定型外訓練の開発をトレーニングチームで取り組みました。
- ④隊指導者研究集会や団委員長集会を開催し、団・隊指導者がスカウト運動の価値を再認識し実践に向けたモチベーションへの機会となりました。
- ⑤セーフ・フロム・ハームの理解促進のために、「セーフ・フロム・ハームガイドライン」を遵守し、スカウトに危害を加えるような行為を未然に防ぐためにセミナーなどを開催しました。
- ⑥団の自己診断（全団調査）を活用し、地区コミッショナー、団担当コミッショナーと協働し、各団の状況に併せた支援を推進します。
- ⑦団継続審査、全団調査をはじめとする各種データを通して、団・隊の現状を把握し、団委員長との対話を通して、団の教育力向上のための支援に取り組みました。

#### (2) スカウト支援関係

①技能章取得支援のためのボーイスカウト救急法講習会は計4回実施しました。また看護法講習会は2年ぶりに実施しました。新型コロナ流行中に実施するために様々な対策を施し、医療従事者である講師の皆さんのご協力により対面で実施することができました。

また、平成28年に改定した看護法講習会ハンドブックの改定に取り組み、内容を看護に特化したものとし、スカウトにわかりやすい表現にするために、講師の皆さんが何回も会議を重ねて

改訂版作成の作業をしました。

令和5年2月に開催された救急法講習会講師・指導員勉強会では、新しい看護法講習会（案）ハンドブックの説明をして、講師の皆さんの意見交換をして、最終版を作成しました、また、次年度の講習会の担当を決めました。

救急法講習会・看護法講習会の講師の増員のため、募集を呼び掛けました。

②スカウトの進級は、今年度は富士スカウト章1人（令和3年度延長届扱い）隼スカウト章4人、菊スカウト章は23人でした。また、技能章については毎月、各地区の取得状況を集計、公表しました。

③進級状況調査を実施し、ビーバー・カブスカウト部門では、コロナ禍でも何とか工夫して進級を進めている努力がみえました。ボーイスカウト部門、ベンチャースカウト部門の進級が統一されたため、高校生で2級スカウトも多くみられる実態が把握できました。今後の進級の支援に活かしていきます。

④スカウトの顕彰、表敬訪問については、千葉県知事顕彰会、県連盟顕彰会が行われ、富士スカウト章、隼スカウト章を取得したスカウトを対象に開催しました。黒野副知事よりお祝いの言葉をいただき、スカウト代表より決意の言葉をのべました。

さらに富士スカウトについては3月に、赤坂東邸にて秋篠宮皇嗣殿下にご接見、首相官邸への表敬訪問が開催されました。本県連盟より1人のスカウトが参加しました。

菊スカウトの市町長顕彰は、該当者のいる地区で実施されました。

⑤信仰奨励のため、各地区での講話会、宗教章取得のための勉強会開催を奨励し、計3回の講話会、1回の勉強会が開催されました。本年度の宗教章取得者は3人でした。

⑥国際関連事業として、令和4年10月に開催されたジャンボリー・オン・ジ・エア（JOTA）、ジャンボリー・オン・ジ・インターネット（JOTI）は、広く県内に参加を奨励し、県連盟特設会場の他、団での参加も含め、県内で139人の参加がありました。

B S Aとの合同キャンプは、これまで有志の団が個別に参加していましたが、県連盟として参加状況を把握するため県内で募集を行い、担当委員が引率で参加しました。

⑦スカウト活動発表会は令和5年3月に開催しました。新型コロナウイルス対策のため、会場とオンラインの同時開催としました。これにより、自宅でも参加者の発表を聞くことができるため、138人の参加がありました。スカウトの発表方法が動画をとりいれたり、音楽をいれたりした工夫を凝らしたプレゼンテーションでした。

⑧第24回全国スカウトフォーラム、の参加に向けて、千葉県スカウトフォーラムを11月に、各地区代表スカウトによって実施しました。テーマに沿って各地区でまとめた意見を発表し、千葉県連盟としての採択文を作り、代表スカウトを選出しました。

代表スカウトが、全国フォーラムに参加し、全国での採択文が決まりました。

令和5年2月に、県内アフターフォーラムを開催し、全国の採択文をもとに千葉県のアクションプランを考えました。県フォーラムの開催にあたり、ローバースカウトがタスクチームに参加し、ベンチャースカウトの話し合いのファシリテーターとして活躍してくれました。

⑨25WSJの派遣員を募集し、面接会を実施、指導者5人、国際サービスチーム員3人、スカウト46人の内定が決まりました。令和5年3月に結隊式を行い、8月の派遣に向けて準備を進めていきます。

### (3) 指導者支援関係

令和4年度の指導者支援委員会事業につきましては、新型コロナウイルスに対する感染対策の浸透により、指導者養成訓練の開設回数、参加者も増加に転じ、概ね計画通りないしそれを上回る実施ができました。

ボーイスカウト講習会は年間で11回の開催を予定しましたが、さらに2回の追加開催に加え、令和4年度団委員長集会でも参加者に受講体験いただき、参加者数をこれまでになく大きく伸ばすことができました。

ウッドバッジ研修所はスカウトコース、課程別研修とも春秋の2回実施し、参加者数は昨年を上回ることができました。また、前年度から延期となっておりました団委員研修所も再開、千葉第31期として開設いたしました。

コミッショナー研修につきましては、コミッショナーベーシックトレーニング、任務別研修地区コミッショナー課程それぞれ各1回の開催を計画しましたが、参加対象が限られることから、ベーシックトレーニングのみの開催にとどまりました。

また、昨年延期となったウッドバッジ実修所ボーイスカウト課程第202期は、改めて開設を申請し、千葉県連盟が開設を担当いたしました。

#### ①指導者養成訓練関係の開設と参加状況（人数は修了者数、[ ]は前年度実績）

##### ・隊（団）指導者の定型訓練

ボーイスカウト講習会： 13回 267人 [ 11回 189人]

（含団委員長集会参加者） 14回 314人

ウッドバッジ研修所スカウトコース：

2回 38人（内県外者0人） [ 2回 31人]

ウッドバッジ研修所課程別研修：

ビーバースカウト課程 2回 12人（内県外者0人） [ 1回 5人]

カブスカウト課程 2回 15人（内県外者0人） [ 2回 11人]

ボーイスカウト課程 2回 22人（内県外者1人） [ 2回 19人]

ベンチャースカウト課程 2回 12人（内県外者0人） [ 2回 6人]

合計 61人（内県外者1人）

団委員基礎訓練課程： 1回 12人 [ 開催中止 ]

##### ・コミッショナーの定型訓練

コミッショナー・ベーシック・トレーニング： 1回 5人 [ 1回 25人]

コミッショナー任務別研修・地区コミッショナー課程：中止 [ 1回 22人]

##### ・隊（団）指導者の定型外訓練

団委員研修会： 3回 29人 [ 3回 30人]

##### ・その他

日本赤十字社救急法講習会：基礎講習 1回 20人 [ 開催中止 ]

：救急員養成講習 1回 12人 [ 開催中止 ]

#### ②安全関係

・コロナ禍における研修参加者の安全確保のため、「指導者集合訓練における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った運営に努め、密を防ぐため募集定員の制限、事前の行動記録、研修中の健康観察等の徹底に努めました。

### ③資材管理関係

- ・千葉県連盟白井倉庫の経年劣化に対処するため、倉庫の塗装、安全柵の付替え等の修繕工事を行い、併せて不要資材を処分して敷地内の環境整備を行いました。
- ・県連盟資材の保全のため、火災保険を付保しました。
- ・トレーニングチーム、21CC 実行委員会と協働し、白井倉庫の資材の整備及び搬出、搬入作業を行いました。

### (4) 運動拡充関係

運動拡充委員会として掲げた事業に対して、取り組んだ結果は以下の通りです。

- ①ワクワク自然体験活動を県内で展開し、日本連盟を通じた募集による事業を71会場実施しました。そのほかにも県内では工夫を凝らした募集活動を実施しました。体験ノートの配布ならびに開催補助金を支給し、積極的な事業展開を支援いたしました。
- ②全国防災キャラバン2022の全国キックオフイベントを、イオンモール幕張新都心で実施しました。また県下5会場で全国防災キャラバンを実施しました。  
スカウトちば100号を発行いたしました。OBの方とローバースカウト、若手指導者の座談会を実施し、スカウト運動の魅力を多くの方に届けられるよう編集いたしました。
- ③地域におけるスカウト運動の存在感を高めるため、千葉県、千葉県青少年団体連絡協議会（青団協）及び関係機関・団体などと連携した活動を計画しました。千葉県忠霊塔拝礼式準備奉仕作業は、別事業との関連や準備期間の問題から奉仕できませんでした。
- ④民間企業との連携について検討し、スカウトちばなどへの広告掲載などを行いました。

### (5) 総務関係

総務委員会として県連盟の健全な運営を図るため、以下の通り取り組みました。

- ① 令和5年度よりの地区再編（11地区より4地区に改編）実施にともない、組織評価特別委員会とともに、再編に伴う諸作業について取り組みました。
- ② 当連盟運営に係る運営費用の大きな収入項目である日本連盟維持会費還付金、千葉県連盟維持財団助成金の予算達成を図るため、それぞれの会員数増加を図る目的で千葉県連盟維持財団共々募集案内チラシを作成し、春、秋2回各団に配布しました。また、千葉県連盟維持財団事務局と協働して日本連盟維持会費、千葉県連盟維持財団会費の地区別納入状況について毎月その納入実績を理事会において報告し、それぞれの地区の納入状況実態を把握していただくことにより、会員募集活動増強を図るよう努めました。また、各地区に3名の新規入会者を募るよう要請しましたが、新規加入増強については計画を達成できませんでした。  
令和4年度実績は、日本連盟維持会費入金額については県連盟目標を達成することができ、また千葉県連盟維持会費納入額については特定寄付金を合わせて維持財団目標額を達成することができました。
- ③ 日本連盟スカウト用品の県連盟経由での販売について県連盟スカウト用品販売担当とともに業務執行体制の強化、申込方法の簡便化などを図り、計画額を大きく上回る取り扱いができ、販売管理手数料収入として県連盟財政に大きく寄与することができました。
- ④ 2020年に策定されました「ボーイスカウト千葉県連盟 中期計画（2020～2022年度）」の最終年度にあたり計画細目事項の遂行検証等分析を行う予定でしたが、評価総括、および各部

門に対してこの中期計画内容をよく勘案して、次年度事業計画を策定していただくよう依頼することまでしか取り組むことができませんでした。

(6) セーフ・フロム・ハーム関係

千葉県連盟セーフ・フロム・ハーム委員会では、県内におけるセーフ・フロム・ハームの推進とその普及に努めました。

- ① 県連盟各地区セーフ・フロム・ハームセミナー開催において、セーフ・フロム・ハーム委員が参席し、教材を使った方法や具体的事例をあげて理解を促すことなどセミナーの運営面で良かった点を他地区コミッショナーに紹介し、運営方法について適切なアドバイスを行い、セミナー開催への支援に努めました。
- ② 日本連盟 AIS 委員会が主催する「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」を開催し、より具体的な事例を紹介しグループワークを中心に問題解決に向け学習しました。

(7) 千葉県ローバース会議

会議室での対面とオンライン会議ツールを併用して月 2 回の定例会議を行い、ローバー活動がより活発になるように取り組みました。

- ① 地区再編に伴い、CRC の新体制および今後の活動について話し合い、CRC 憲章の制定について草案を練った。
- ② オンラインカフェを通じて、新地区の交流の場や県 VS ラウンドテーブルの意見調査を行った。
- ③ 県連盟スカウトフォーラムや県内 VS 隊指導者向け研修会など、県連盟事業への奉仕に取り組みました。

(8) 組織評価特別委員会

令和 5 年度に 11 地区を新 4 地区に再編するために、県連盟規約ならびに地区に関する規則の改正案の作成に協力しました。また、新地区をスムーズに立ち上げるために、各地区に当委員会委員を座長とする地区設立準備会議を組成し、地区体制の準備と各地区間の情報共有に取り組みました。

(9) 第 21 回千葉県キャンポリー

第 18 回日本スカウトジャンボリーと連携し、開催地を富津市、令和 4 年 8 月 5 日～11 日開催に向けて準備を進めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大期となり医療体制への不安・発症後のスカウト保護の観点から、7 月 26 日に開催中止を決定いたしました。

保護者、参加者への納得のゆく返還、関連業者への補償などを精査し、千葉県連盟別途積立金の特別事業・危機管理積立金から資金を充当し精算を完了しました。